

1. 災害ボランティアセンターに関するアンケート調査

内閣府は、平成16年度設置された災害ボランティアセンターを対象に設置状況等について、その現状把握や課題を把握するために、アンケート調査を実施した。

実施期間	平成17年1月26日～2月11日
対象	平成16年度設置された災害ボランティアセンター
調査方法	担当部局への郵送による送付（全国社会福祉協議会、センターが設置された都道府県社会福祉協議会の協力を得る）FAXおよび郵送による回収
回収	58センター中57センター（98%）

(1) 災害ボランティアセンターの設置の経緯について

問1-1 災害ボランティアセンター（以下、「センター」）についてお答えください。

平成16年度設置された災害ボランティアセンターを設置された順にまとめた。

表1 今年度設置された災害ボランティアセンター一覧

	都道府県	市区町村	正式名称	災害名	活動期間
1	新潟県	栃尾市	栃尾市災害ボランティアセンター	新潟県集中豪雨	7/14～8/6
2	新潟県	長岡市	長岡市災害ボランティアセンター	新潟県集中豪雨	7/15～7/25
3	福井県	福井県	福井県災害ボランティア本部	福井県豪雨災害	7/19～8/13
4	新潟県	中之島町	中之島町災害救援ボランティアセンター	新潟県集中豪雨	7/15～8/10
5	新潟県	見附市	見附市災害ボランティアセンター	新潟県集中豪雨	7/16～7/21
6	新潟県	三条市	三条市災害ボランティアセンター	新潟県集中豪雨	7/17～8/8
7	福井県	福井市	福井市水害ボランティアセンター (みのり・一乗)	福井県豪雨災害	7/18～8/13
8	福井県	今立町	今立町水害ボランティアセンター	福井県豪雨災害	7/19～8/13
9	福井県	美山町	美山町水害ボランティアセンター	福井県豪雨災害	7/20～8/3
10	福井県	池田町	池田町災害ボランティアセンター	福井県豪雨災害	7/20～7/27
11	福井県	鯖江市	さばえ災害ボランティアセンター	福井県豪雨災害	7/20～8/6
12	愛媛県	新居浜市	新居浜市社協災害ボランティアセンター	新居浜集中豪雨、 台風21号災害	8/19～9/10
13	岡山県	倉敷市	倉敷災害救援ボランティア本部	台風16号	9/1～9/21
14	岡山県	玉野市	玉野市災害救援ボランティアセンター	台風16号	9/2～9/9
15	岡山県	玉野市	玉野市災害救援ボランティアセンター	台風23号	10/23～10/30

	都道府県	市区町村	正式名称	災害名	活動期間
16	香川県	香川県	高松水害ボランティアセンター	台風 16 号	9 / 3 ~ 9 / 1 2
17	広島県	呉市	くれ災害ボランティアセンター	台風 18 号	9 / 8 ~ 9 / 1 4
18	三重県	伊勢市	伊勢市災害ボランティアセンター	台風 21 号	9 / 3 0 ~ 1 0 / 8
19	愛媛県	西条市 (旧小松町)	小松町災害ボランティアセンター	台風 21 号	1 0 / 1 ~ 1 0 / 8
20	三重県	海山町	海山町災害ボランティアセンター	台風 22 号	1 0 / 1 ~ 1 0 / 1 3
21	三重県	宮川村	宮川村地域たすけあいセンター	台風 21 号	1 0 / 2 ~ 1 1 / 1 1
22	愛媛県	西条市	西条市水害ボランティアセンター	台風 21 号・23 号	1 0 / 3 ~ 1 0 / 2 4
23	三重県	津市	名称不明	台風 21 号	1 0 / 3 ~ 1 0 / 1 0
24	愛媛県	四国中央市	四国中央市社会福祉協議会	台風 21 号	1 0 / 7 ~ 1 0 / 1 4
25	愛媛県	四国中央市	四国中央市社会福祉協議会	台風 23 号	1 0 / 7 ~ 1 0 / 1 4
26	静岡県	伊東市	伊東市災害ボランティアセンター	台風 22 号	1 0 / 1 2 ~ 1 0 / 1 7
27	岡山県	津山市	災害市民ボランティア本部	台風 23 号	1 0 / 2 1 ~ 1 0 / 3 1
28	香川県	国分寺町	国分寺町社会福祉協議会	台風 23 号	1 0 / 2 1 ~ 1 0 / 3 0
29	岐阜県	高山市	飛騨高山災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 1 ~ 1 0 / 2 6
30	高知県	窪川町	窪川町ボランティア連絡協議会 災害ボランティア活動ベースキャンプ	台風 23 号	1 0 / 2 1 ~ 1 0 / 2 3
31	京都府	伊根町	名称不明	台風 23 号	1 0 / 2 1 ~ 1 1 / 3
32	京都府	福知山市	福知山市災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 1 ~ 1 1 / 1 1
33	香川県	坂出市	坂出市台風 23 号災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 2 ~ 1 1 / 2
34	香川県	さぬき市	さぬき市災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 2 ~ 1 1 / 1
35	岐阜県	郡上市	郡上市災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 2 ~ 1 0 / 3 0
36	岐阜県	国府町	国府町災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 2 ~ 1 0 / 2 7
37	京都府	綾部市	台風 23 号綾部災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 2 ~ 1 0 / 3 1
38	京都府	大江町	大江町水害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 2 ~ 1 1 / 7
39	香川県	東かがわ市	東かがわ市水害救護ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 3 ~ 1 1 / 1
40	京都府	加悦町	加悦町災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 3 ~ 1 1 / 7
41	京都府	舞鶴市	まいづる災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 3 ~ 1 1 / 3
42	京都府	宮津市	宮津市災害ボランティアセンター	台風 23 号	1 0 / 2 3 ~ 1 1 / 3
43	兵庫県	豊岡市	豊岡市水害ボランティアセンター (豊岡市社会福祉協議会)	台風 23 号	1 0 / 2 3 ~ 1 1 / 1 2
44	新潟県	十日町市	十日町市災害ボランティアセンター	新潟県中越地震	1 0 / 2 4 ~
45	新潟県	長岡市	長岡市災害ボランティアセンター	新潟県中越地震	1 0 / 2 4 ~

	都道府県	市区町村	正式名称	災害名	活動期間
46	新潟県	栃尾市	栃尾市災害ボランティアセンター	新潟県中越地震	10 / 24 ~
47	新潟県	川西町	川西町災害ボランティアセンター	新潟県中越地震	10 / 24 ~
48	新潟県	柏崎市	柏崎市災害救護ボランティアセンター	新潟県中越地震	10 / 24 ~ 12 / 15
49	兵庫県	洲本市	洲本市災害ボランティアセンター	台風23号	10 / 24 ~ 11 / 5
50	香川県	三木町	三木町社会福祉協議会	台風23号	10 / 25 ~ 10 / 31
51	新潟県	越路町	越路町災害ボランティアセンター	新潟県中越地震	10 / 25 ~
52	岐阜県	飛騨市	飛騨市災害ボランティアセンター	台風23号	10 / 26 ~ 11 / 5
53	兵庫県	一宮町	一宮町社会福祉協議会 災害ボランティアセンター	台風23号	10 / 26 ~ 11 / 7
54	新潟県	小千谷市	小千谷市災害ボランティアセンター	新潟県中越地震	10 / 27 ~ 12 / 19
55	兵庫県	出石町	出石町水害ボランティアセンター	台風23号	10 / 27 ~ 11 / 3
56	新潟県	小国町	小国町災害ボランティアセンター	新潟県中越地震	10 / 28 ~
57	徳島県	徳島市	徳島市災害支援ボランティアセンター	台風23号	10 / 29 ~
58	新潟県	川口町	川口町災害ボランティアセンター	新潟県中越地震	10 / 30 ~
59	新潟県	魚沼市	名称不明	新潟県中越地震	11 / 1 ~
60	新潟県	山古志村	山古志村災害ボランティアセンター	新潟県中越地震	11 / 23 ~

図1 災害別からみたボランティアセンターの設置数

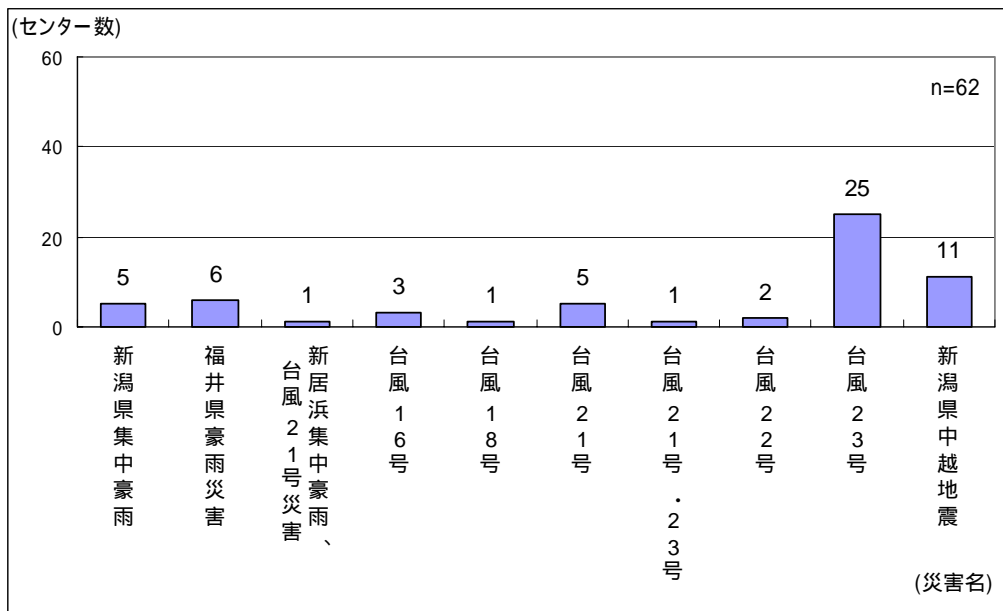
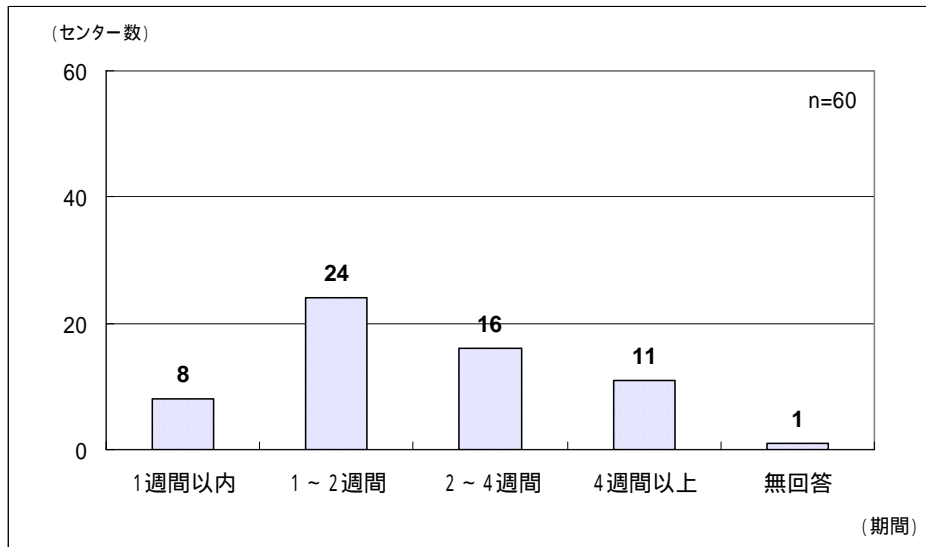


図2 災害ボランティアセンターの設置された地域



平成 16 年は、7 月の新潟、福井の集中豪雨以降、台風の影響により、東北・関東・九州での災害ボランティアセンターが設置された。特に台風 23 号では、10 月 21 日から 29 日にかけて、関西地域を中心に 25 のセンターが設置された。平行して、新潟県中越地震が発生し、10 月の最終週には全国で 36 ものセンターが設置、運営されたことになる。

図3 ボランティアセンターの活動日数

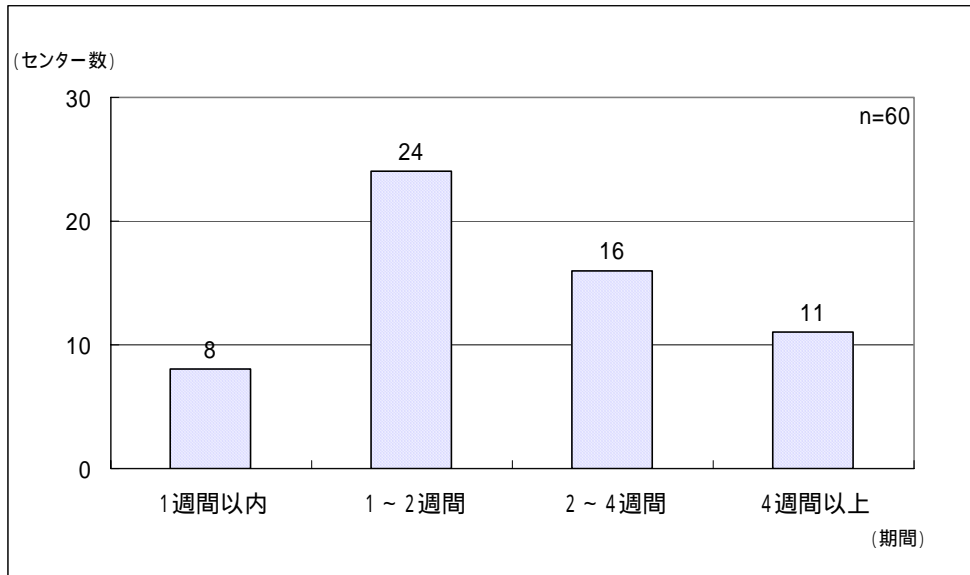
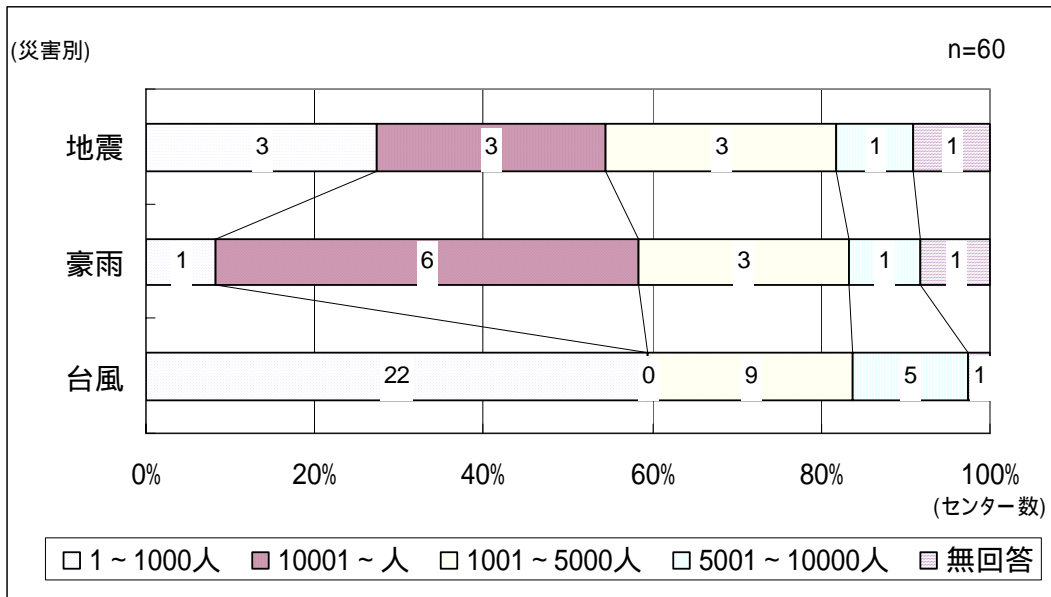


図4 災害の種類からみたボランティア活動人数
センターで受け付けたボランティアの延べ人数



センターの活動日数は1～2週間が半数近くを占めている。「豪雨」「台風」「地震」の災害別にセンターの活動日数を見てみると、台風の場合は1～2週間、豪雨の場合は2～4週間、地震の場合は4週間以上がそれぞれ一番多い傾向にある。災害の規模にもよるであろうが、活動日数の目安といえるであろう。

図5 設置日数から見たボランティア活動人数（台風）
センターで受け付けたボランティアの延べ人数

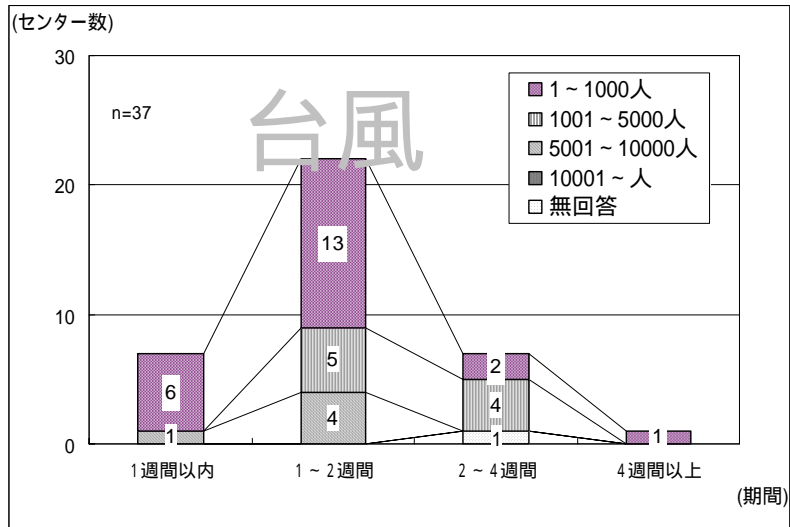


図6 設置日数から見たボランティア活動人数（豪雨）
センターで受け付けたボランティアの延べ人数

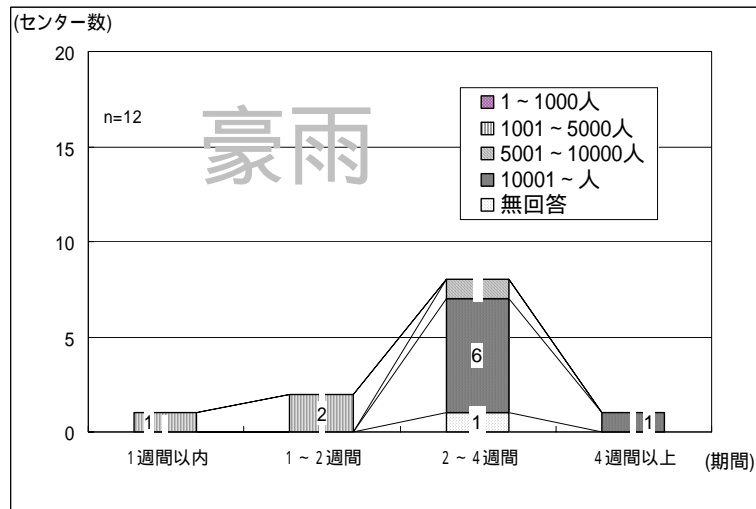
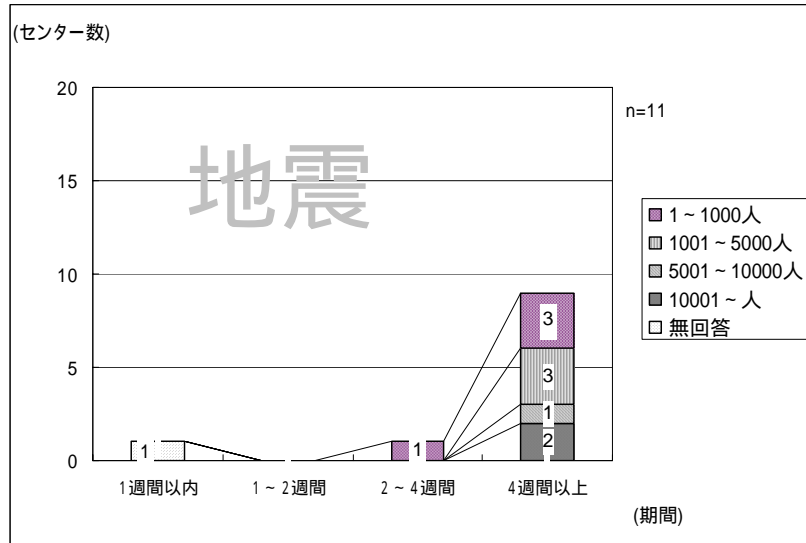


図7 設置日数からみたボランティア活動人数（地震）



センターで受け付けたボランティアの延べ人数

以下、センターを設置した理由について、自由記載をまとめた。

- ・ 災害の状況を調査する中で必要と判断したため。(1 5 回答)
- ・ 被害地が広範囲となり、行政との協議の上、自主的に設置。(3 回答)
- ・ 日常業務対応では対応できない。災害弱者への復興支援の必要性があった。(3 回答)
- ・ 社会福祉協議会として、地域福祉の中で社会弱者の方からのニーズがあることを想定し、とりあえず看板を翌日にあげた。(2 回答)
- ・ 住民からのニーズ、外部ボランティアの要望が多く、行政では対応が難しいため。(9 回答)
- ・ 社会福祉協議会が災害対策本部の役割を行っていたので、被害情報を早く把握できた。また、会長が町長であった為、行政との連絡調整もスムーズであり、社会福祉協議会・行政の判断で設置した。
- ・ 突然の災害に見舞われ社会福祉協議会として何か役に立ちたかったから。社会福祉協議会がボランティア・市民活動センターを常設して日ごろから勉強していたから。
- ・ かつて無い災害のため、地域内での助け合いでは復旧に時間がかかり、社会的弱者は後回しにされる可能性があった。そこで社会的弱者の世帯を中心にボランティアの投入を決定した。
- ・ 台風 16 号の反省及び市との協議。
- ・ 台風災害により、町に災害救助法が適用されたため。
- ・ 市の地域防災計画に準ずるとともに、市内外の被害者ニーズの把握とボランティア活動に対する情報収集および情報提供の一元化のため。
- ・ 大きな被害を受け市民の力だけでは復興が困難であるし、報道等でボランティアの協力が

予測されるため、地元を中心としたボランティア活動をスムーズに行うことのできるシステム作りのため、住民からのボランティア依頼。ボランティアの問い合わせがよせられることが予想されたため。

- ・ 県外ボランティア（NPO法人）からのアドバイス。
- ・ 仮設住宅設置に伴う生活支援のため。
- ・ 市役所に市内ボランティアから災害への支援活動の申し出があり災害ボランティア受け入れ態勢の要請があったため。
- ・ 一刻も早く災害復興を行いたかったため。
- ・ 台風 21 号の水害により 179 世帯が床上浸水に陥り、市が設置した。
- ・ 住家への浸水が起こったため、被災後の高齢者や障害者世帯における住居の片付けについて協力を求めた。
- ・ 災害地の集落だけで対応できないと判断。まず社会福祉協議会でボランティア募集。その後、町と協力し集中的に対応。
- ・ 大規模被害と細かいニーズ把握が次第にしにくくなり、効率的なボランティアの投入ができなくなってきた。
- ・ 市からの要請及び災害救助ボランティアの受け入れやコーディネート可能な団体が本会以外にいないため。
- ・ 市内各地で土砂崩れがおき、地域内での助け合いでは復旧に時間がかかり、社会的弱者は後回しになる可能性があった。そこで社会的弱者の世帯を中心にボランティア投入を決定した。

図 8 災害ボランティアセンターの設置団体の属性

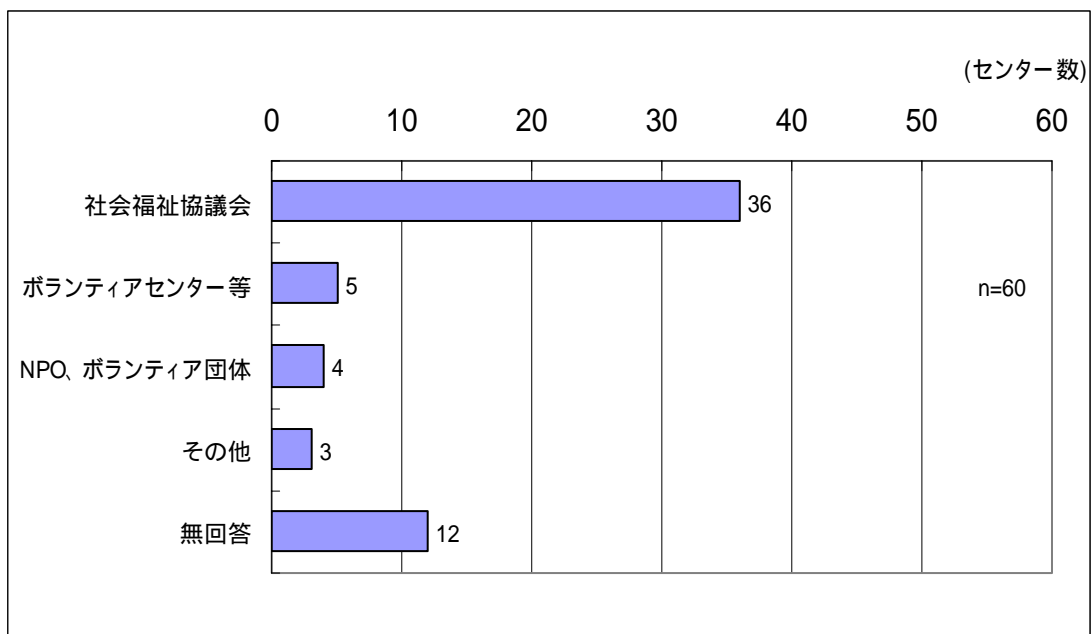
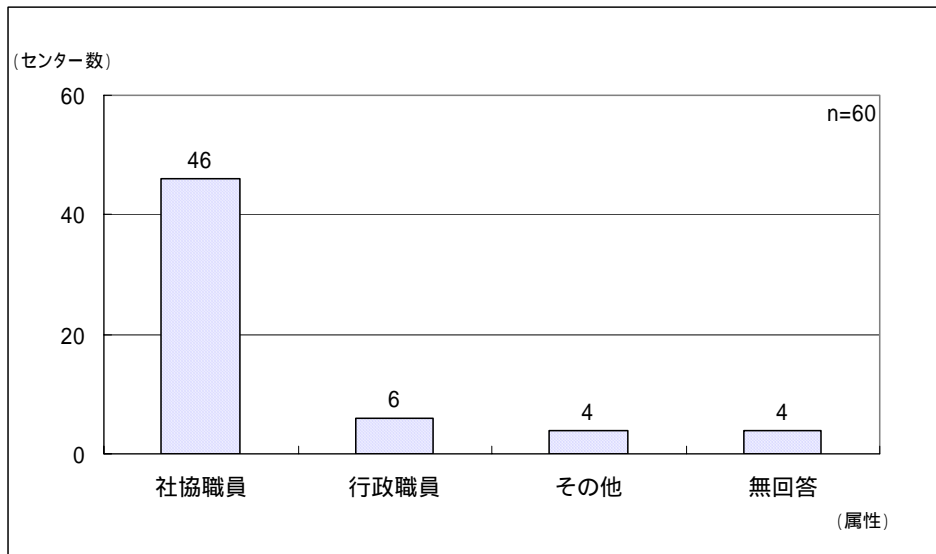


図9 センター長の属性



災害ボランティアセンターの設置には、「社会福祉協議会」が関わっているケースが多く見られた。また、センター長も社協事務局長などの社協職員が担うケースが一番多い。

災害ボランティアセンターの運営は、社協職員や行政職員などの専従職員だけでなく、ボランティアのスタッフが関わっていることが多く見られる。スタッフ数は、専従職員、ボランティア職員それぞれ「1～9名」となっているところが一番多く、10～40名程度で運営していくケースが多いと考えられる。専従職員、ボランティアスタッフの構成の違いは、設置時・運営時・閉塞時で特に大きな違いは見られない。

設置時における専従職員とボランティアスタッフの総計は、「1～9人」で運営しているケースが多く見られ、ほとんどのセンターでは、30名以下のスタッフで運営している。

災害別にセンタースタッフ数を見てみると、「台風」「地震」では、「1～9人」のスタッフ数となっている事例が多く見られるが、豪雨災害では、「20～29人」が一番多く、若干センターのスタッフが多くなっている。

図10 設置時のボランティアセンタースタッフ（専従スタッフとボランティアスタッフの合計）

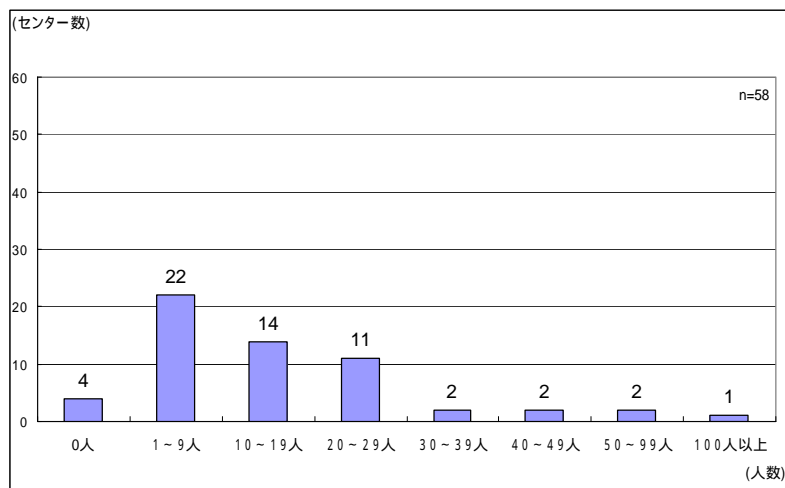
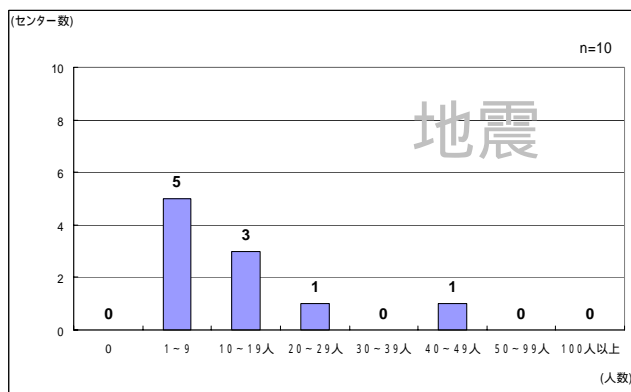
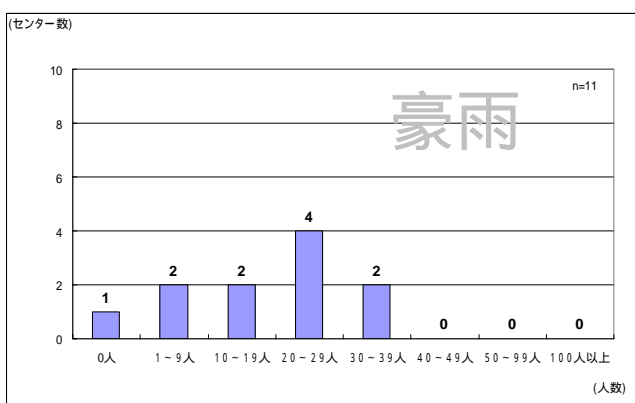
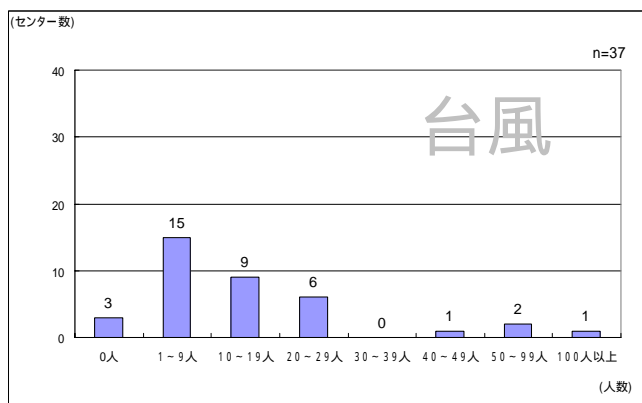


図11 設置時のボランティアセンタースタッフ（専従スタッフとボランティアスタッフの合計）

（左：台風、右：豪雨、下：地震）



ボランティアの受入数の最高時におけるセンタースタッフ数は、30名未満と「50～99人」がそれぞれ多い。特にこのケースが、豪雨と地震災害では顕著に見られる。

図14 最高時のボランティアセンタースタッフ（専従スタッフとボランティアスタッフの合計）

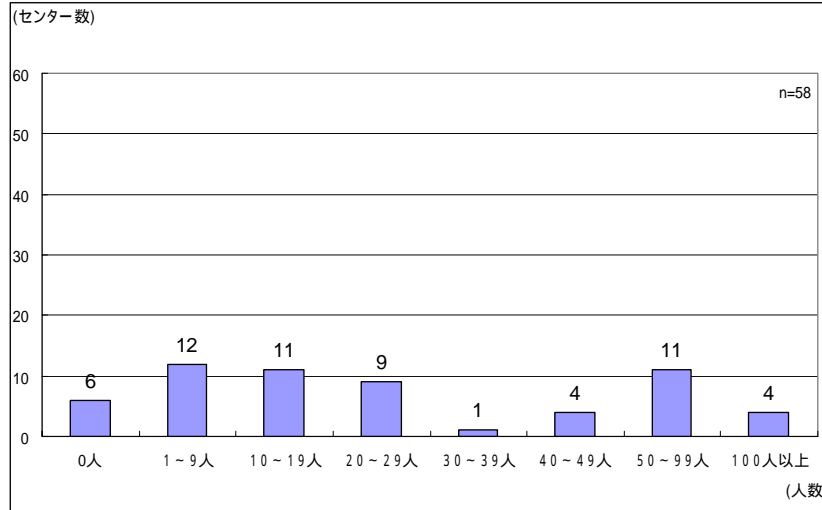
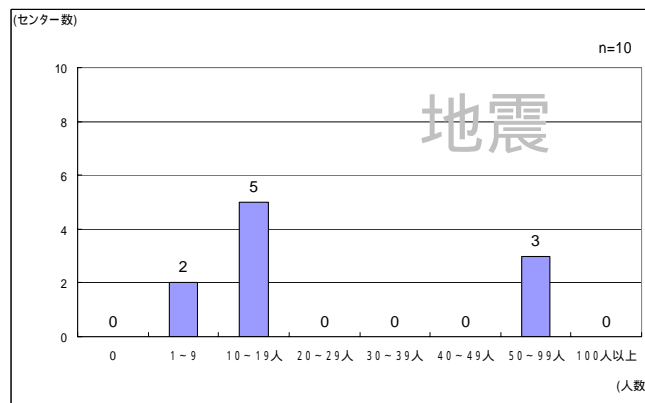
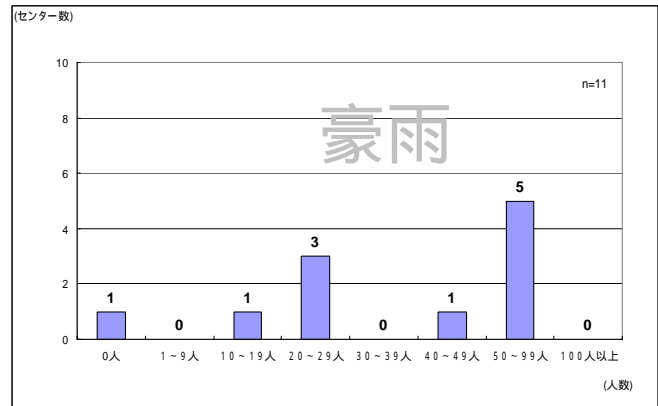
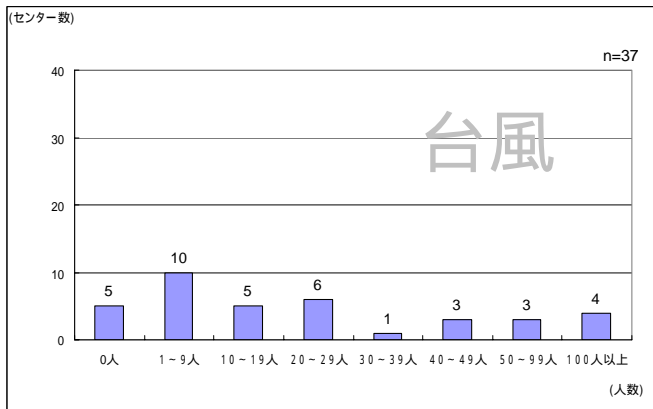


図15 最高時のボランティアセンタースタッフ（専従スタッフとボランティアスタッフの合計）

（左：台風、右：豪雨、下：地震）



閉鎖時におけるセンターのスタッフ数は、「1～9人」が一番多く、設置時に近い傾向がある。

図16 閉鎖時のボランティアセンタースタッフ（専従スタッフとボランティアスタッフの合計）

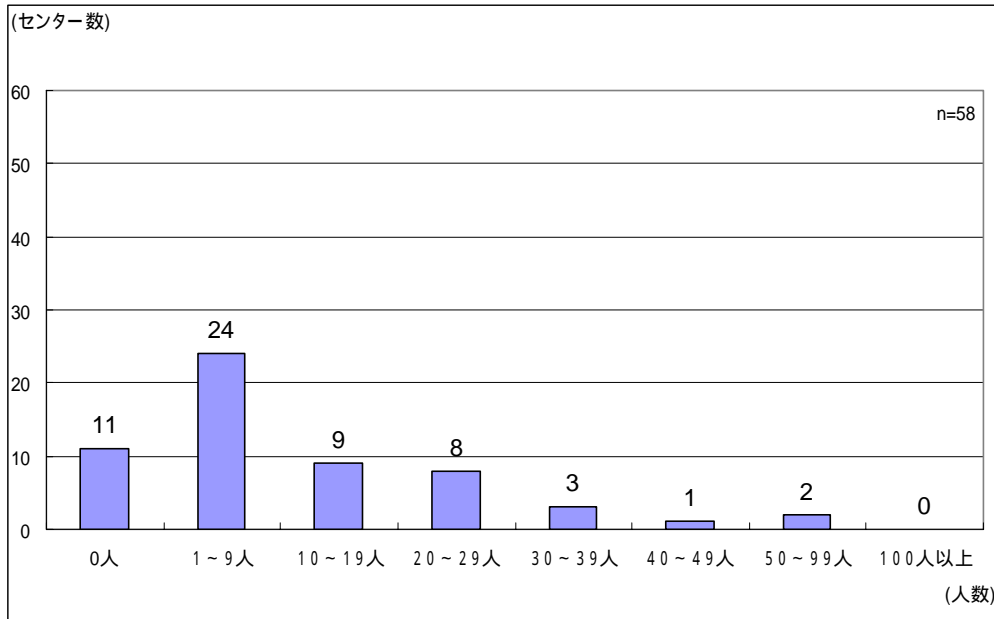


図17 閉鎖時のボランティアセンタースタッフ（専従スタッフとボランティアスタッフの合計）

（左：台風、右：豪雨、下：地震）

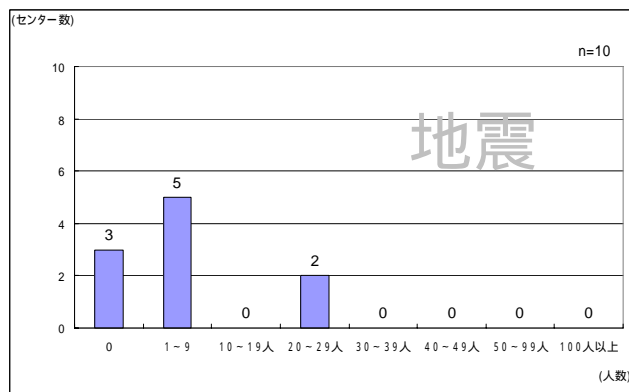
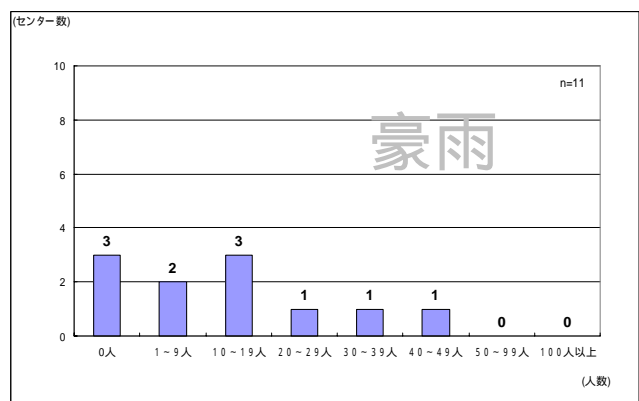
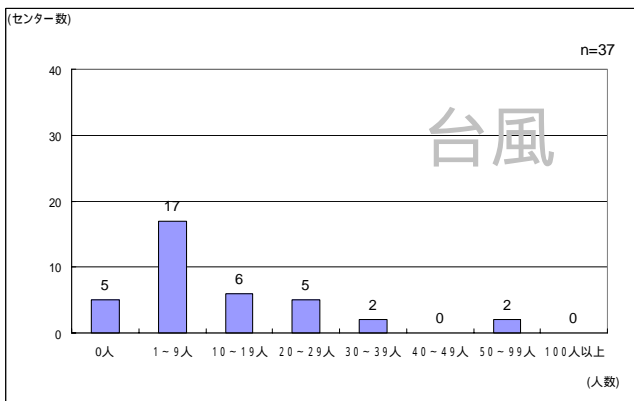
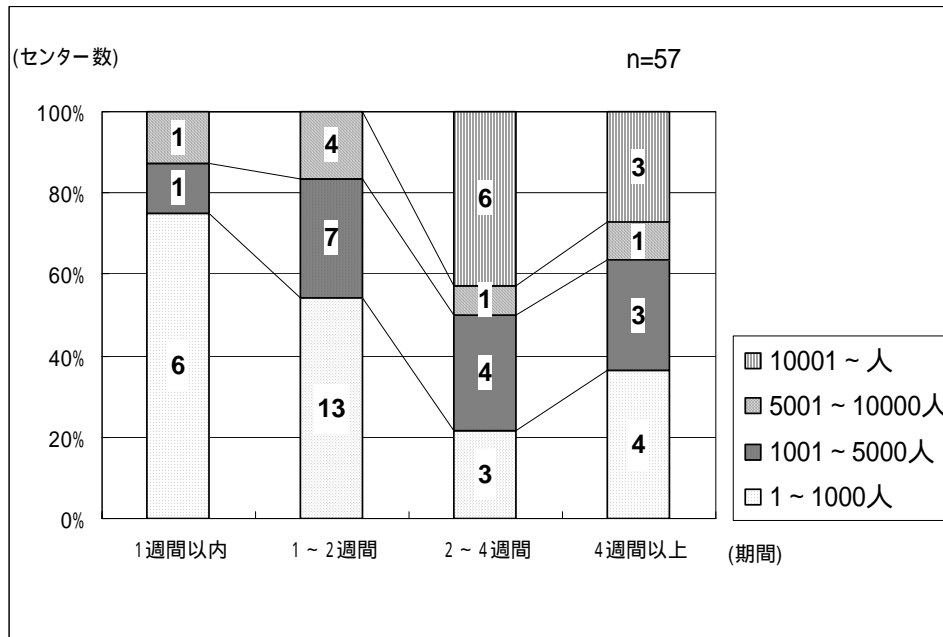


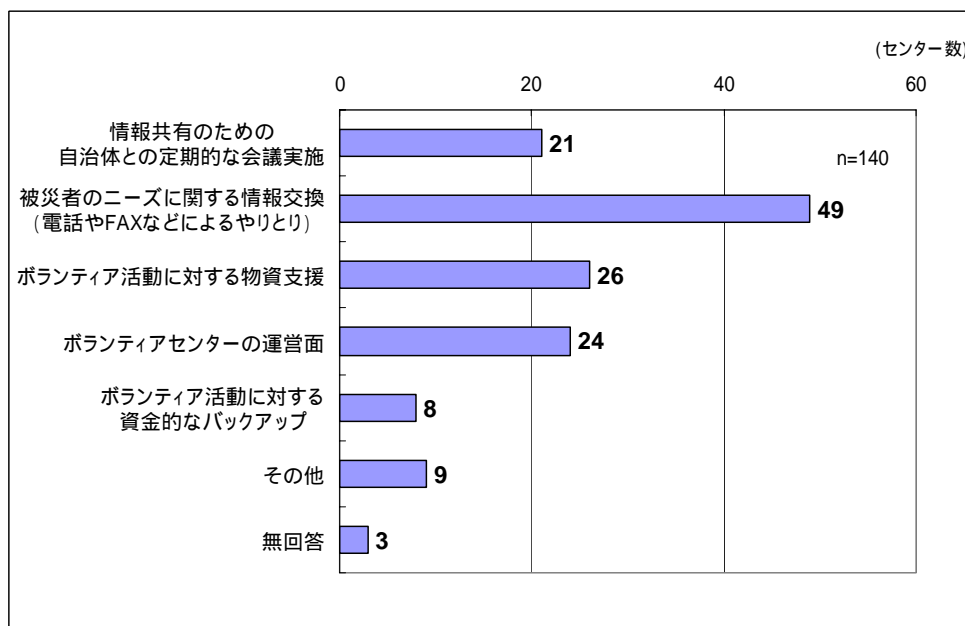
図 1 8 設置日数から見たボランティア活動人数 センターで受け付けたボランティアの延べ人数



センターの設置日数が「2~4週間」の場合、センターで受け付けたボランティアの延べ人数が一番多くなる傾向となっている。長期化することが必ずしもボランティアの人数が増えていくわけではない。

問1-2 災害ボランティアセンターと自治体との連携内容について、下記の中から該当するものすべてについてお答えください。

図 1 9 行政と災害ボランティアセンターの連携内容

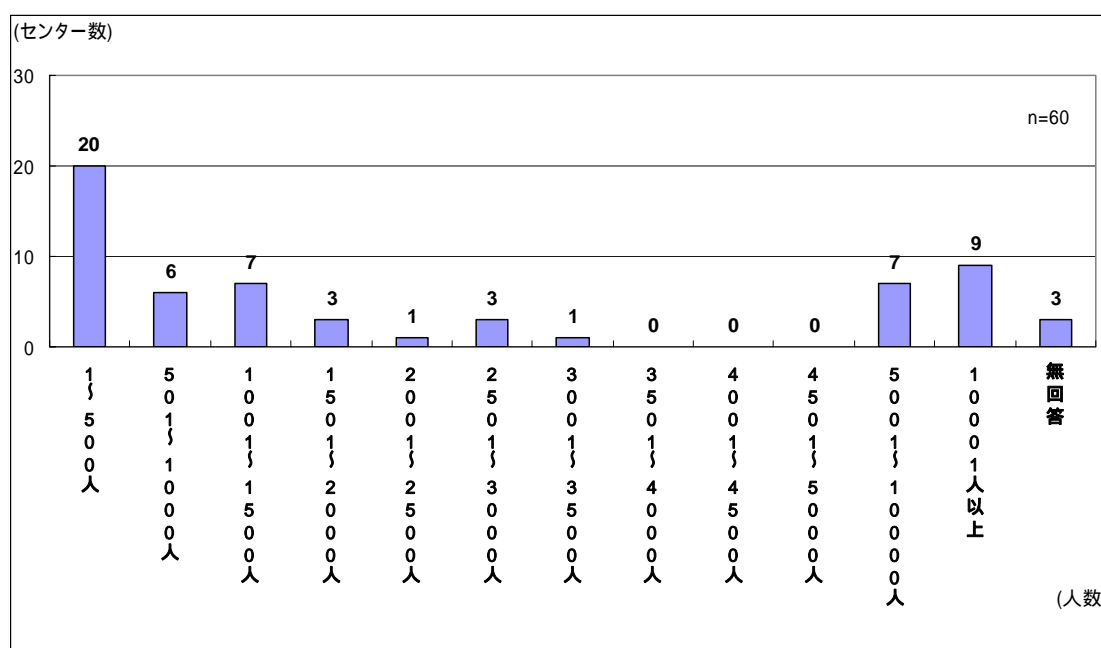


センターと行政との連携は、「被災者のニーズに関する情報交換」が一番多い。また、「ボランティア活動に対する物資支援」「ボランティアセンターの運営面(への支援)」「情報共有のための定期的な会議の実施」などを行っているところも全体の半数近くある。

問1-3 災害ボランティアセンターを通じて活動したボランティア数や活動内容についてお答えください。

図20 ボランティアセンター受付の延べ人数

ボランティアセンターが閉鎖していないところは、1月までの延べ人数



センターでのボランティアの受付延べ人数は、「500人以下」が20事例あるが、500～3000人の受付をしているセンターもある。また、5000人以上の受付をしているセンターもある。

以下、ボランティアの主な活動に関する自由記述をまとめた。

多くの活動では、「泥だし」「土砂撤去」など人手が必要な活動が多く見られる。また「家財道具の移動」など被災した家屋に出入りする活動も多く見られる。

- ・ 被害家屋内外の清掃・消毒及び今後家屋被害が想定される水路清掃。
- ・ 被災者宅の家屋内の土砂、家財の搬出等。
- ・ 家財道具の移動。家周辺や床下の土砂撤去等。
- ・ 高齢独居等を優先した。床下消毒ができる状態にするまでの廃棄物の運び出しなど、救援物資支援。
- ・ 被災家屋の後かたづけ、家具等の運び出し、泥だし、泥かき、ごみ・流木等の除去。
- ・ ごみ・畳・家具などの搬出、床板、泥土の撤去・消毒。

- ・ 水害の片づけ、掃除、ニーズの聞き取り。
- ・ 災害ごみの分別・公共場所の駐車場の清掃。
- ・ 災害ごみの分別、泥の搬出、家具の搬出、不要品の搬出。
- ・ 床上浸水など被災住宅の土砂取り除き清掃など。
- ・ 家具の等の搬出入、土砂搬出、家屋の清掃、災害ごみの分別。
- ・ 土砂撤去、床下泥よけ、家具運び出し、消毒。
- ・ 土砂だし、家財道具の運び出し、清掃、ニーズ調達。
- ・ 土砂撤去・家具の搬入撤去・ニーズ調査・消毒・清掃。
- ・ 泥だし・家財道具の撤去清掃等。
- ・ 土砂のかきだし、家財撤去など。
- ・ 災害家屋・土砂などの除去作業。
- ・ 土砂撤去、土嚢設置。
- ・ 土砂撤去、被災物品の移動、側溝掃除。
- ・ 住宅の泥だし、家財、家具、家具類などの片づけ、洗浄。
- ・ 家財などの屋外への運びだし。
- ・ 家財道具の移動、家周辺や床下の土砂撤去等。
- ・ ごみの除去、床めくり、掃除など。
- ・ ごみ分別、搬入、家屋内外の片づけ、障子張り、ふれあい活動、仮設住宅訪問など。
- ・ 災害ごみの搬出、清掃、相談業務など。
- ・ 家具類の搬出入、屋内の清掃、片づけ。
- ・ 家の床下、床上の泥かき、水路、土砂の撤去。
- ・ 個人宅（住居部分の）の泥かき、掃除。
- ・ 家屋内土砂の撤去・消毒、ブロック塀の撤去、災害ごみの運搬、行政機関の紹介（羅災証明の発行、災害ごみの受け入れ、健康相談等）や民間（建設）業者に対する相談。
- ・ 住居内の家財の運び出し、泥撤去、炊き出し、物資仕分け。
- ・ ライフラインの確保、復興活動、炊き出し。
- ・ 生活支援（見守り戸別訪問、集会場運営補助）イベント各種、団体調整。
- ・ 被災後の高齢者、障害者世帯における住居の片付け。
- ・ 市民生活の復興支援（家財の搬出、泥かき、清掃など）。
- ・ 瓦礫撤去、炊き出し、ハウス撤去作業、サロン立ち上げ、（地域）公共施設清掃。
- ・ 避難所の運営補助、救援物資の仕分け、被災家屋の後かたづけ、仮設住宅への引越作業など。
- ・ 救助物資受け入れ整理、炊き出し、住宅内片づけ、避難所スタッフ。
- ・ 物資、片づけ、介護、子守り、引越等。
- ・ 被災家屋内外の片付け、荷物の運び出し、引越しの手伝い。
- ・ 支援物資の荷下ろし、避難所の設営、後かたづけ、引っ越しなど。

- ・ 避難所支援、救援物資受付・搬送・屋内片づけ、ごみ分別、障子張り 等。
- ・ 家財の片づけ作業。
- ・ 掃除等の後片付け。

(2) 資金について

問2-1 災害ボランティアセンターの「初動時の立ち上げ資金」について、調達先と調達金額をお答えください(複数回答)。

図2-1 災害ボランティアセンターの設置・運営に使われた資金総額

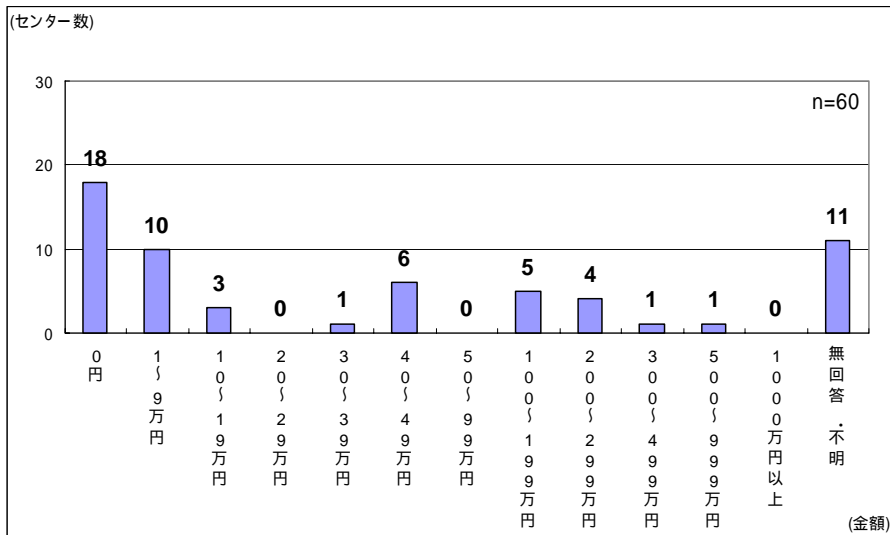
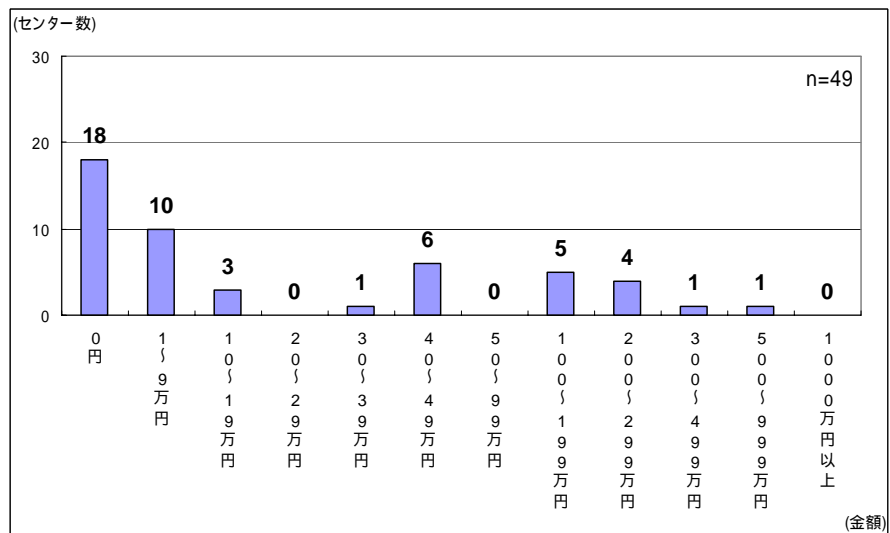
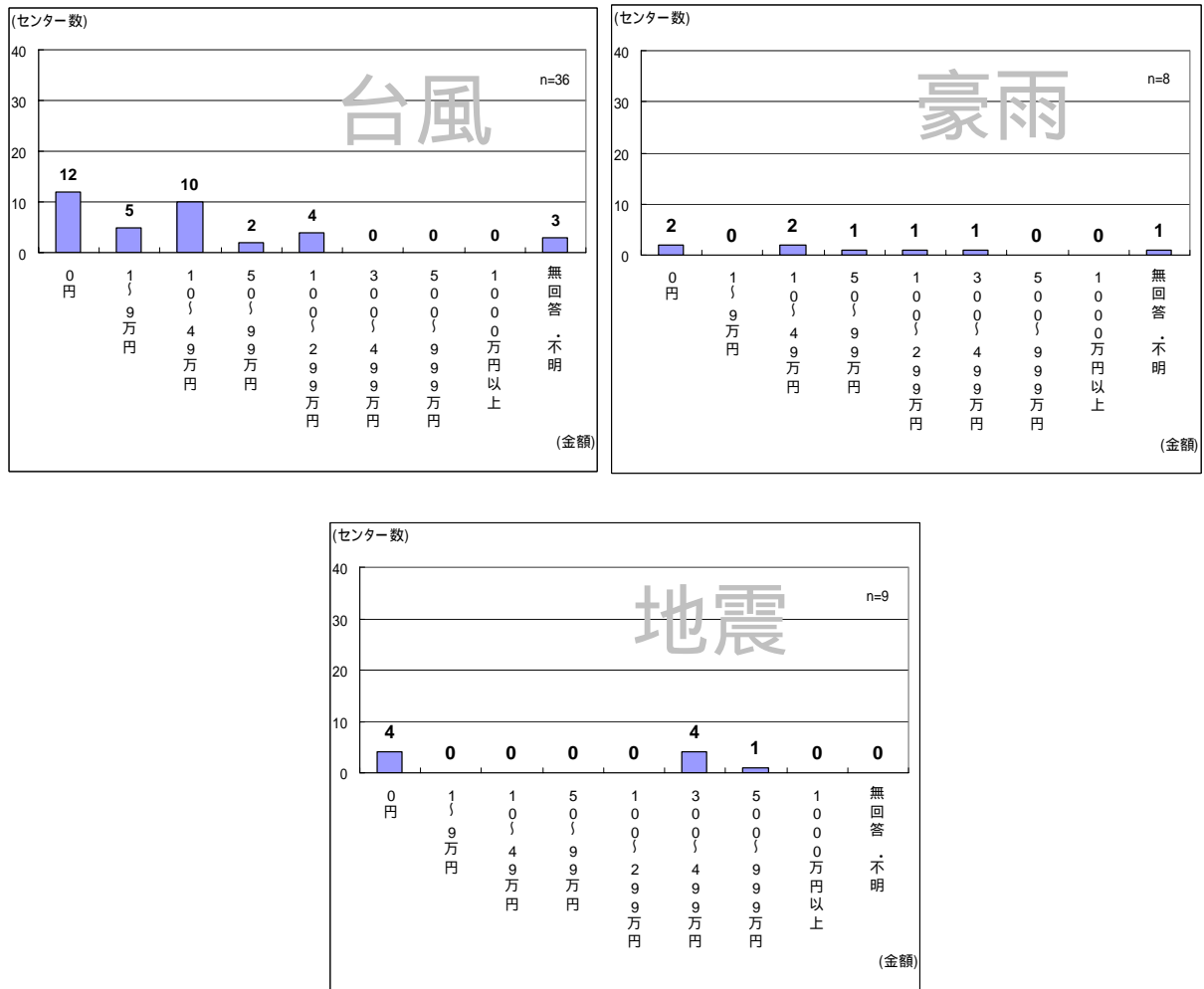


図2-2 災害ボランティアセンターの設置・運営に使われた資金総額(無回答・不明を除く)



災害の規模や種類にもよるが、センターの運営・設置には50万円以上の資金を使ったとの回答が多い。1000万円以上の資金を使ったセンターは、三条市災害ボランティアセンター、豊岡市水害災害ボランティアセンター、福井市災害ボランティアセンター、新居浜市社協災害ボランティアセンターの4センターとなっている。

図 2 7 災害ボランティアセンターの設置に使われた資金 (左: 台風、右: 豪雨、下: 地震)



災害別に設置に使われた資金を比較したところ、台風によって設置されたセンターでは 300 万円以下の資金となっているが、豪雨、地震災害の場合は 300 万円以上の資金が使われている。

問2 - 2 災害ボランティアセンターの「立ち上げ後の運営資金」について、調達先と調達金額をお答えください（複数回答）。

図 2 8 災害ボランティアセンターの運営時に使われた資金額

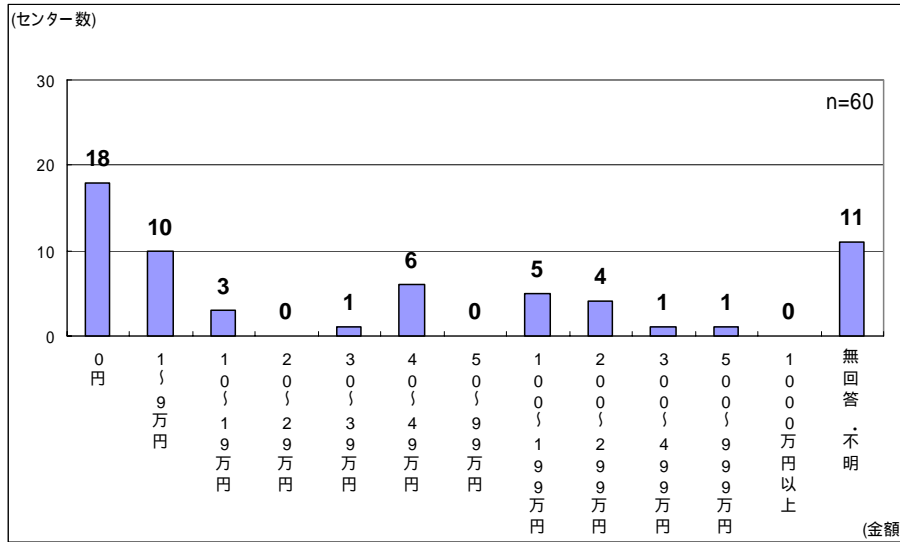
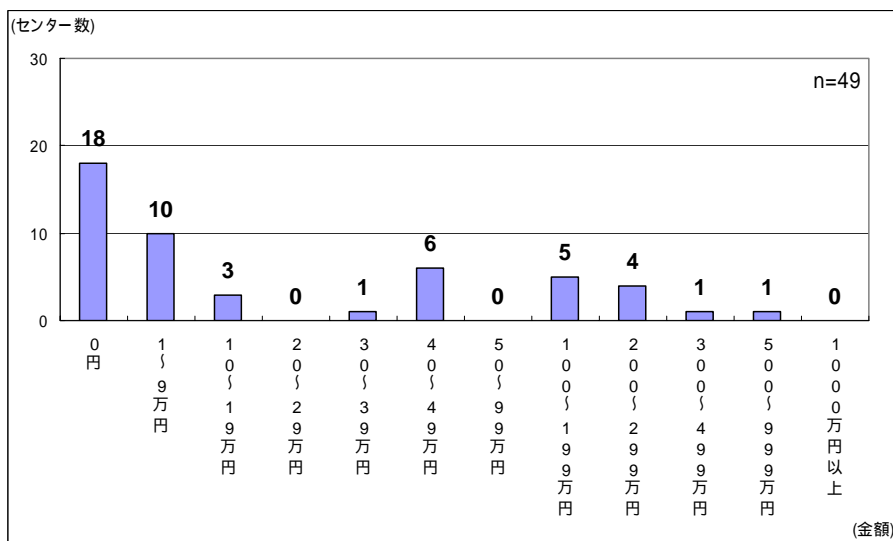
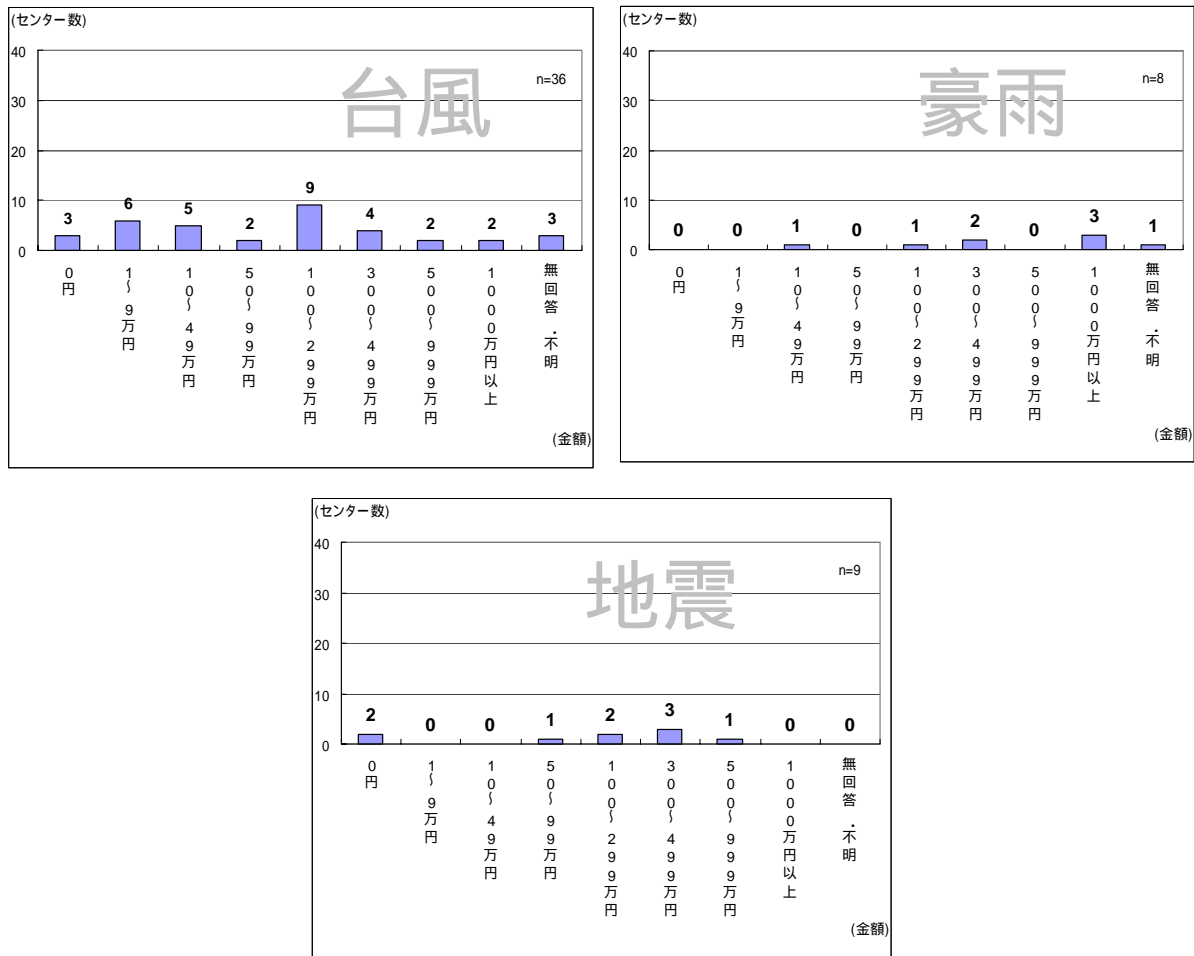


図 2 9 災害ボランティアセンターの運営時に使われた資金額（無回答・不明を除く）



設置時に比べて、「0円」の回答が少なくなっており、全体の7割程度のセンターで50万円以上の資金を使っている。

図30 災害ボランティアセンターの運営時に使われた資金額（左：台風、右：豪雨、下：地震）



災害別にセンターの運営資金を見たところ、台風災害は、300 万以下の活用が多く、豪雨・地震では 100 万円以上かかっているセンターが多くなっている。

図 3 1 設置時の資金調達先

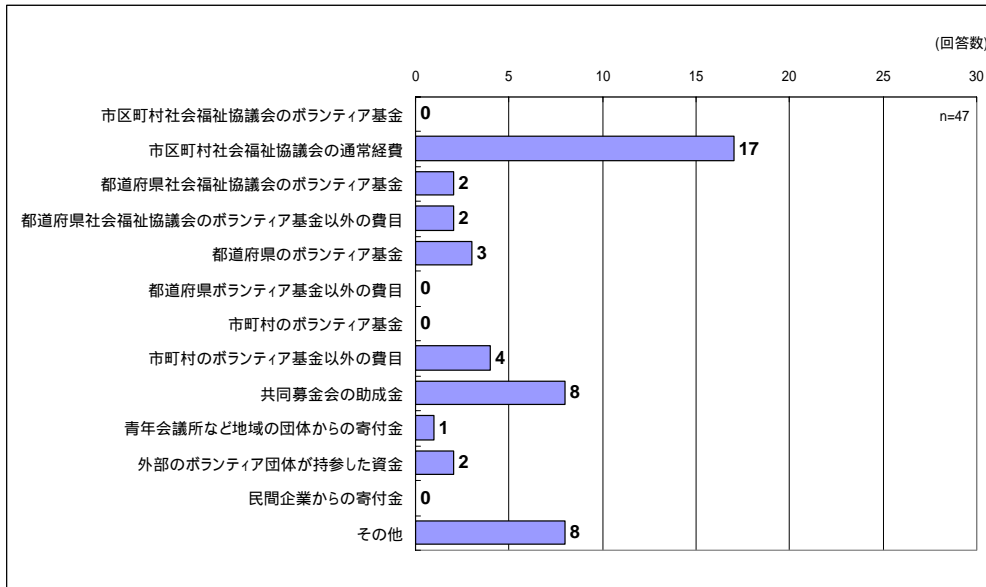
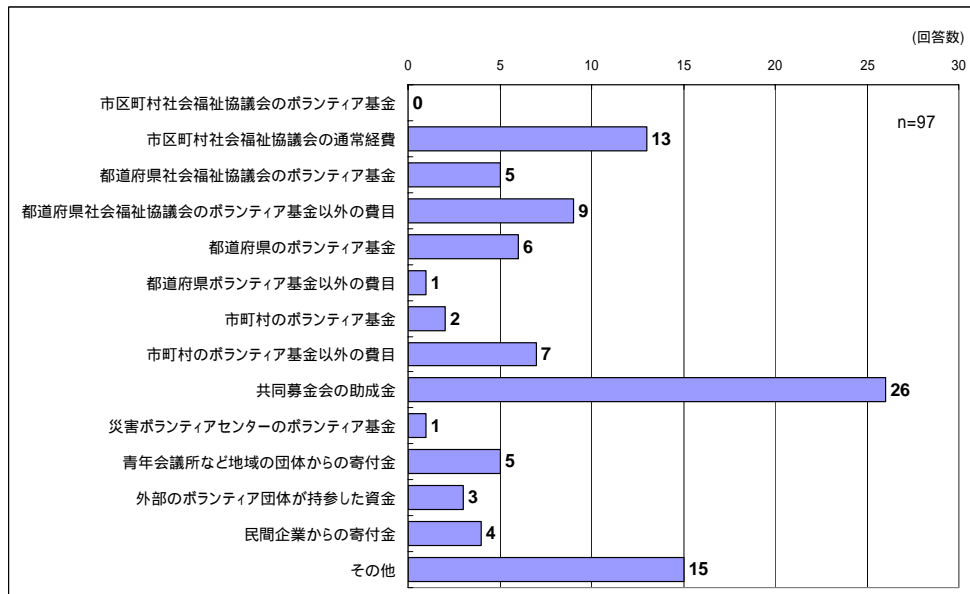


図 3 2 運営時の資金調達先

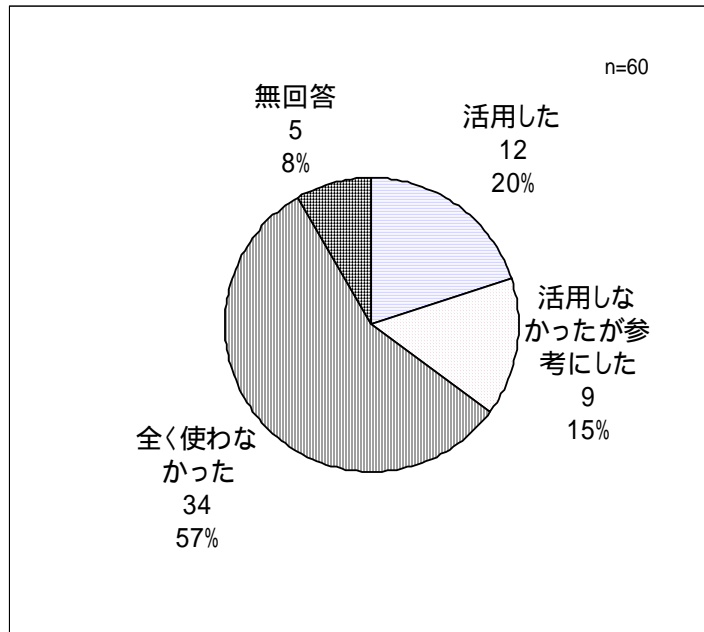


資金の調達先は、設置時は「市区町村社協の通常経費」が多く、運営時には「共同募金会の助成金」を活用したセンターが多い。また、ボランティア基金を活用したセンターは設置時、運営時ともに 10 程度しかない。

(3) 設置・運営に関するマニュアルについて

問3 - 1 今年度の災害ボランティアセンター設置・運営にあたり、マニュアルはありましたか。

図3 3 災害ボランティアセンターで使われたマニュアル



センターの運営にマニュアルを活用もしくは参考にしたセンターは35%で、それ以外はまったく使われていない。

以下、自由記載の内容をまとめた。

活用した理由

- ・ 初めての設置・運営のため。
- ・ どのようにしたらよいか分からなかったので活用した。
- ・ 効果的な活動を行うため。
- ・ 初めての災害ボランティアセンター立ち上げであったので参考程度に活用した。
- ・ 全体を通して、センター運営の方向性がまちがいないか等、確認するために使った。

活用しなかったが参考にした理由

- ・ 高潮災害を想定したものではなかった。緊急事態だったため、活用する前に内部で検討し対応した。その後参考にした。
- ・ 県社会福祉協議会のものを参考にし、規模を縮小して使用。
- ・ 身近にあったマニュアル書がこれしかなかったため。また、内容が地震を想定したものであったため、あくまでも参考とした。

- ・ 日々、現場先行で当日のニーズに応える形でボランティアセンターが形成されていった。活動内容の確認や今後予想される展開等で現状を整理する意味でホームページを参考にした。
- ・ 震災時の様子とは違っていたので。
- ・ センター立ち上げの経緯等が違う為、町の受け入れ体制等に合わなかった。対応マニュアルは、地域性も加味したものが本当に必要だと感じた。
- ・ センター開設時から関わっている、災害経験のあるN G O、県社会福祉協議会などのスーパーバイザーがノウハウを持っていたため、参考程度で運営ができたため。

まったく使わなかった理由

- ・ マニュアルがなかった。(9 回答)
- ・ 災害ボランティアセンターの設置・運営マニュアルが未整備のため。(2 回答)
- ・ マニュアル自体を作成していない。(2 回答)
- ・ マニュアル作成の検討中でマニュアルが存在しない。
- ・ NPO 法人の経験からくる運営を毎日のミーティングで、微調整しながら、今、災害用として形づくっていった為。
- ・ マニュアルを持っていなかったため県社会福祉協議会の様式などを参考にした。福井県の災害の時に職員を派遣していたため、そのときの活動を参考にした。
- ・ 社会福祉協議会事務局も浸水し、すべての情報などが寸断された中での立ち上げだったため、マニュアルなどを活用する状況ではなかった。
- ・ 初めてのことでマニュアルがなかった。ボランティア団体のコーディネーターの方や経験のある市社会福祉協議会の方からの助言や指導を仰ぎながら立ち上げることができた。
- ・ 多くの団体からご指導いただいたため。
- ・ 災害ボラセンの設置・運営に関するマニュアルはなかった。ボランティア依頼表やボランティア活動者に配布する資料などは他市町村災害ボラセンのものを参考にさせてもらった。
- ・ 災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルは整備していなかった。
- ・ 初めての経験であり、ノウハウのあるN P Oなどの助言をもとに設置・運営した。
- ・ ボランティアの対象業務を限定していたため。
- ・ 事務所(社会福祉協議会)に取りに行くことが出来なかった。
- ・ 発災7 / 1 8の前日に、県社会福祉協議会主催の防災に関する研修があり、その時にもらったマニュアルなので、熟読できず活用する間もなかった。NPO が運営の指導をしてくれたのでその指示にしたがった。
- ・ 突然の災害であり、まず社会福祉協議会でボランティア募集、その場で臨機応変に対応した。その後は毎日町と次の日の対応を協議した。
- ・ 集中豪雨水害(平成 11 年)、芸予地震(平成 13 年)と近年 2 度にわたる災害体験を兼ね備えた上でのこのたびの被災であり、マニュアルがなくとも「何をするべきか」「誰が行うか」

を各部署のリーダーが心掛けているから。

- ・ 災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルが未整備のため。
- ・ 作成していなかったため、その日、その日の活動がマニュアルになっていた。
- ・ マニュアルはなかったが、先の 7・13 新潟・福島集中豪雨災害時での災害ボランティアセンター運営を参考に、その場で考えながら組織を作りあげていったため。

図 3 4 活用または参考にされたマニュアルの作成主体

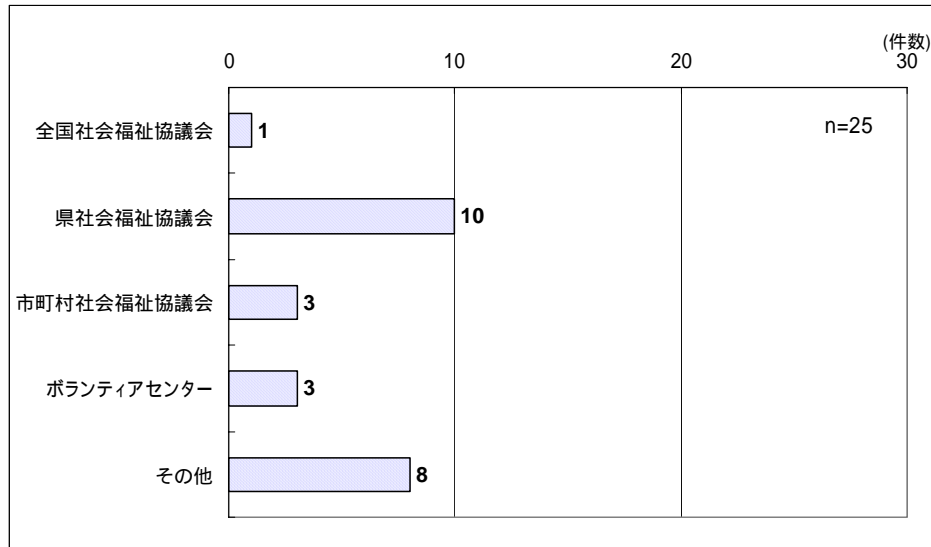


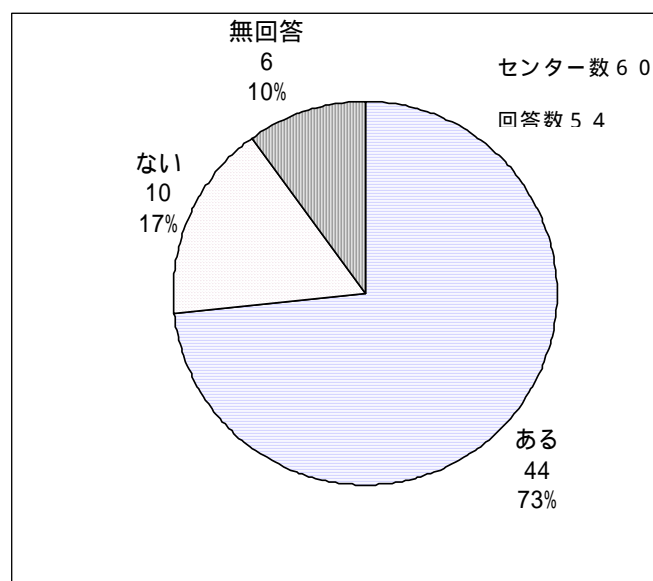
表 2 活用または参考になれたマニュアルの作成主体

センター名	マニュアル作成主体
福井市水害ボランティアセンター	福井県災害ボランティア連絡会（民間 19 団体で構成）および福井県
西条市水害ボランティアセンター	愛媛県ボランティアセンター
小松町災害ボランティアセンター	愛媛県ボランティアセンター・新居浜市社会福祉協議会
倉敷災害救援ボランティア本部	岡山県社会福祉協議会
国分寺市社会福祉協議会	香川県社会福祉協議会
さぬき市災害ボランティアセンター	香川県社会福祉協議会、日本赤十字社香川県支部
坂出市災害ボランティアセンター	香川県社会福祉協議会、日本赤十字社香川県支部日本赤十字社香川県支部
東かがわ市災害ボランティアセンター	香川県社会福祉協議会
飛騨市災害ボランティアセンター	岐阜県社会福祉協議会
窪川町ボランティア連絡協議会	高知県社会福祉協議会
加悦町災害ボランティアセンター	全国社会福祉協議会
宮津市災害ボランティアセンター	日本赤十字社
栃尾市災害ボランティアセンター	インターネットにより複数のマニュアルを参考にした。

長岡市災害ボランティアセンター	新潟県社会福祉協議会
中之島町災害救援ボランティアセンター	災害救援を考えるホームページ
海山町災害ボランティアセンター	高知県社会福祉協議会
今立町災害ボランティアセンター	福井県社協、ボランティアセンター
津ノ一宮町社会福祉協議会 災害ボランティアセンター	神戸市社会福祉協議会
出石町水害ボランティアセンター	豊岡市社会福祉協議会
豊岡市水害ボランティアセンター	どうつくる？水害ボランティアセンター編集委員会
栃尾市災害ボランティアセンター	インターネットにより複数のマニュアルを参考にした

問3 - 3 災害ボランティアセンターが設置された市町村の「地域防災計画」に、ボランティアに関連する記述はありますか。

図35 市町村地域防災計画の中のボランティアに関連する記述の有無

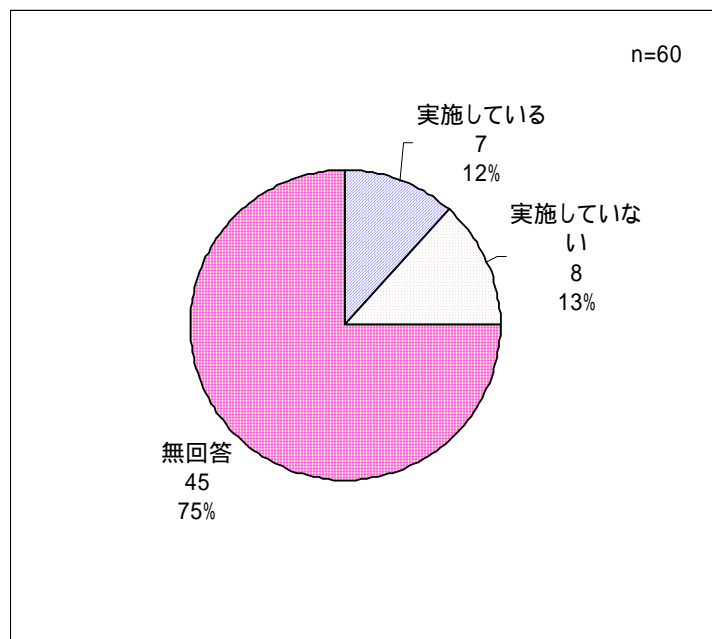


災害ボランティアセンターの設置された市町村の7割は、地域防災計画にボランティアに関する記述がされている。

(4) 行政とボランティアセンターとの平時からの連携

問4 - 1 災害ボランティアセンターが設置された市町村において、災害ボランティアセンターの設置や災害ボランティアの受付・配分等を視野に入れて防災訓練を実施している例があれば、連携して訓練している主体名とその概要をお答えください(自由記載)

図36 ボランティアセンターの設置等を防災訓練で実施しているセンター



行政とボランティアセンターの平時からの連携について、災害ボランティアセンターの設置等を防災訓練で実施しているセンター(市町村)は1割程度しかなく、ほとんどが無回答であった。

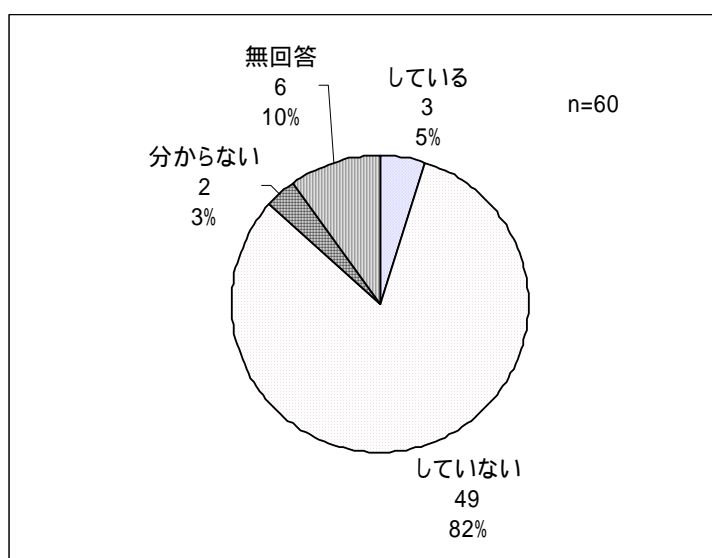
以下、自由記載の内容をまとめた。

- ・福井県が実施する総合防災訓練に際して、民間15団体で構成する「福井県災害ボランティアセンター連絡会」で災害ボランティアセンターの立ち上げ及び運営に関する訓練を実施している。
- ・ボランティアセンター設置訓練というものはあるが、具体性がなく、名目だけの訓練。NPO法人コミュニティ飛騨の参画で、「DIG」が昨年度、実施された。
- ・災害ボランティアセンターの役割と機能、センター受付模擬練習
- ・毎年行われる市の防災訓練において、日赤奉仕団による炊き出し訓練がメニューに組み込まれているが災害ボラセン設置やボランティア受付などの訓練はない。
- ・毎年地震災害を想定して、関係機関と合同で訓練しているが、ボランティアセンター設置を視野に入れての訓練はされていない。

- ・地震を想定して年に2回
- ・次(の災害)への備えとして、市においては、1999年(平成11年)6月29日の広島県西部豪雨水害の際に、救援活動を目的として設置した「水害ボランティアセンター」の活動終了・解散後、有志が集まり、中心とした今後の災害に対応するため民間ボランティア団体「災害ボランティアセンター「大きな和」」を設立している。災害ボランティアセンター「大きな和」会員は、各個人が得意とする分野・仕事において能力を高めるよう努力をしており、「大きな和」の組織としても東海豪雨水害や鳥取県西部地震、高地県西部豪雨水害、岐阜県水害、熊本県水俣水害、新潟県三条・中之島水害、愛媛県新居浜水害、岡山県玉野水害、兵庫県豊岡水害、新潟県中越地震に会員を派遣するなど活動(災害ボランティアセンター設立、運営ノウハウの提供、被災地の地域性をコミュニティワークの展開)を展開している。また、一例ではあるが、先の高知県豪雨水害の際、市内のボランティアを中心としたセンターと市社会福祉協議会と市行政で研修を実施した。具体的には、芸予地震以降、設立した市行政の災害基金を利用して大型バスを貸し切り、ボランティアを乗せて現地へ向かった(延べ100名)これらの参加者についても災害ボランティアセンターの各セクションでリーダー的役割(核)を担う力量を備えた人たちを選出している。

問4-2 防災を目的とした、自治体とボランティア団体等との連携の場(協議会等)を設置されていますか。設置されている場合、その構成員と事務局となる主体をお答えください。

図37 防災を目的とした自治体とボランティア団体等との連携の場の設置の有無



協議会などの行政とボランティアの連携の場づくりは、8割のセンター(市町村)で行われていない。

以下、自由記載の内容をまとめた。

- ・ 平成 17 年 1 月 23 日社会福祉協議会、日本赤十字社県支部、県ボランティア・NPOネットワーク、市民活動応援団の 4 団体で「某県災害ボランティア協議会」設立。現在、参加団体募集中。行政はオブザーバーとして参加予定
- ・ 市役所と社会福祉協議会
- ・ 市、市内のNPO法人、市外でボランティアセンター運営にかかわったNPO法人